



書道家
永田 紗戀 様

2017年のアデランス様の活動を、まるで一つの本をめくるように、箕輪執行役員が語ってください、「新たな才能が新たな道を切り開いていく」そんな言葉をメモしていました。日本だけでなく、グローバルでもご活動されているアデランス様にただ感動し、表紙のイメージを膨らませていきました。アトリエで眺めながら「新進」は、しっかりとした根があるからこそその言葉であり、その根は「初志」であり「優」なのだろうと今までの表紙を想い、胸が熱くなりました。CSR 広報室の皆様が優しい笑顔で表紙のお話をされていた印象、そのままが今回の表紙なのかもしれません！

CSR コミュニケーションレポート 2017

外部団体および企業とのコラボレーション



JHD&C

Japan Hair
Donation & Charity
Nonprofit Organization

団体の活動に賛同し、「愛のチャリティ」とのコラボレーションに向けた動きが進んでいます。



日本毛髪科学協会

毛髪と皮膚についての正しい知識をお客様へお伝えできるように、公益社団法人日本毛髪科学協会に加入し、社員への毛髪診断士の資格取得の推進に取り組んでいます。

毛髪診断士は、公益社団法人日本毛髪科学協会の登録商標です。



経営倫理実践研究センター

企業の経営倫理を実践研究するわが国初の産学協同の専門機関である一般社団法人経営倫理実践研究センターに参加し、経営倫理に関する組織体制の強化に努めています。



がん患者の生活をサポート

株式会社 VOL-NEXT

患者様が安心して、医療用ウィッグをご利用できる体制を整えるため、がん患者サービス事業会社である VOL-NEXT 社による医療講習を実施しています。



Think Pearl.

一般社団法人シンクパールは活動目的に賛同し、「婦人科系検診」の啓発と促進、「子宮頸がん」の未然予防、患者支援でのコラボレーションに向けた動きが進んでいます。

株式会社 アデランス

グローバル CSR 広報室

〒160-0007 東京都新宿区荒木町 13 番地 4

住友不動産四谷ビル

TEL: 03-3350-3268

E-mail: csr@aderans.com

URL: <https://www.aderans.co.jp/corporate/csr/>



～みんなでひとつつながろう～

OneWorld プロジェクト

「One World プロジェクト」(協力 / 公益財団法人日本対がん協会、後援 / J-CAN) の活動に賛同し、東日本大震災で被災された、がん患者様のウィッグの「お手入れ支援サービス」を提供しています。



ツバルの森

ツバルの森を通じて、日本国内山間部の森林再生活動に取り組んでいます。

このマークは、ツバルの森の植林の利用を表すマークです。



日本毛髪工業協同組合

毛髪業界が健全に発展し、お客様からの信頼を得られるように、業界団体「日本毛髪工業協同組合」の運営に取り組んでいます。



さくら並木ネットワーク

2011年の東日本大震災・大津波の到達地に桜を植え、津波被害を伝承する桜並木を植樹し、東北地方の復興支援に協力しています。



Network Japan
WE SUPPORT

2014年4月に国連グローバル・コンパクトに加入しました。社会の良き一員として、持続可能な成長を実現し、本業を通じて社会に貢献する「事業と一体となった戦略的CSR」を積極的に推し進めています。

2017年9月発行



笑顔のために

株式会社 アデランス



株式会社アデランス
代表取締役 会長 CEO
根本 信男

当社は、創業以来「お客様の毛髪に関するお悩みを解決したい」という思いで事業に取り組み、2018年には創業50周年を迎えようとしています。

現在では、国内だけでなく、アメリカ・ヨーロッパ・アジアなどの海外でも事業が進み、「世界のブランド アデランス」の布石が進んできています。

その分、社会に対する、当社の責任は大きくなっています。その責任を適正な形で発展させることが当社のCSRであり、しっかりとしたコンプライアンスを事業の基盤に置かなければならないと考えております。

「世界のブランド アデランス」という夢を実現するため、社会的価値の新たな創造に挑戦してまいります。

「グッドカンパニーの実現」を経営ビジョンに掲げ、当社はさらなる成長を目指しております。

その目標の実現において、一番重要と考えているのが「人財の力」です。社員一人ひとりがアデランスグループの主役として、自分を磨きレベルをあげることが、今後の成長の源となります。

アデランスの活動地域は、現在17カ国となり、グローバルに広がっています。それにともない、企業としての社会的責任にもグローバルな視点が不可欠となっています。

国内外で約6,600名もの社員が、自らの社会的責任を自覚し、さまざまな分野で活躍できる、CSR意識溢れるグッドカンパニーを目指してまいります。



株式会社アデランス
代表取締役 社長 COO
津村 佳宏

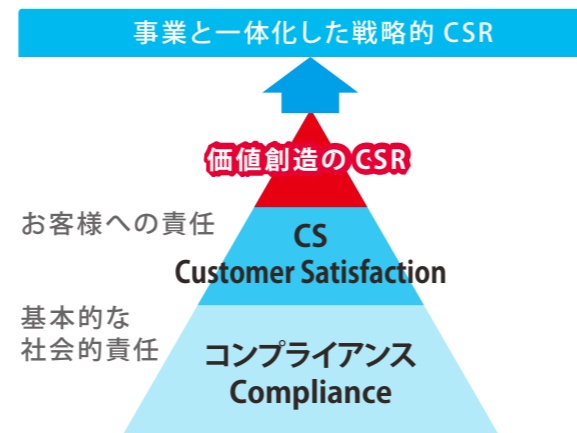
経営理念

私たちアデランスグループの最大の使命は、
毛髪関連事業を通じて、
より多くの人々に夢と感動を提供し
笑顔と心豊かな暮らしに貢献することです。

私たちが目指すもの
「最高の商品」
「最高の技術」
「心からのおもてなし」

アデランスのCSRについて

アデランスグループでは、CSRへ取り組むことの意義を「健全で永続的な企業成長を目指すこと」という成長ドライバーにすることで事業との一体性を明確にし、本業を通じたCSRと位置づけたことにあります。そうした活動の根幹には、「自社の強みを社会で活かす」ことがあります。



会社概要

商号：株式会社アデランス
(英文名称：Aderans Company Limited)
設立年月日：1969年(昭和44年)3月1日
資本金：12,944百万円
連結子会社数：55社

国内外ネットワーク

店舗数等(2017年7月末現在)
国内 541店
アデランス
レディスアデランス 168店
フォンテーヌ 245店
病院内ヘアサロン 29店
その他 99店

活動地域 17ヶ国
地域別従業員数
(2017年5月末現在)
国内 2,729名
国外 3,887名
計 6,616名

男性向けブランド
ADERANS
男性向けにオーダーメイドウィッグ、増毛商品、育毛サービスを提供しているブランドです。

海外ウィッグ
HAIRCLUB
米国で男性向け、女性向けにヘアシステム、育毛サービスを提供しているブランドです。

女性向けブランド
FONTAINE
レディスアデランス
女性向けにオーダーメイドウィッグ、レディメイドウィッグ、ヘアケア&スカルプケアを提供しているブランドです。

毛髪移植
BOSLEY
世界25万例以上に及ぶ治療実績を誇る、毛髪移植(ヘアトランスプラント)技術を提供しているブランドです。

フランス
ドイツ
ベルギー
オランダ
イギリス
スウェーデン
ノルウェー
デンマーク

日本
中国
台湾
タイ
フィリピン
シンガポール
ラオス

アメリカ
カナダ

英国の名門レスター大学での 戦略的 CSR 講義

秋篠宮家の眞子様が学ばれた英国のレスター大学より、アデランスが招聘され、2016年に続き2度目の特別講義を行いました。



レスター大学ボイル学長(左から3番目)を囲んで。ボイル学長からは、当社に対して感謝のお言葉とレスター大学も同様にCSR活動を大切にされているとお話を伺いました。

2017年9月4日、イギリス中西部にある国立の名門レスター大学より正式の招聘を受けビジネススクールのマスタークラスの学生を対象に、日本企業初となる2年連続でCSR講義を行いました。

昨年はサマーセッションの特別講義を実施し、大学から高い評価をいただいたことにより、今年はMBAコースの正規の授業の中で講義を行いました。



講義が行われた、ケン・エドワードビルディング



講演する津村社長



学生からは、CSR活動が企業の利益へとつながることに驚いたという声が多く聞かれました。

レスター大学で講義したアデランス講演者のコメント

当社の「事業と一体化した戦略的 CSR」がレスター大学より御評価いただき、2年連続での講義は大変に光栄なことです。

CSRが組織力を上げ、経営品質を高める仕組みに大学院生の皆さんから関心いただき、講義後も、聞き足りない点の質問があり、レスター大学院生の熱心さ・素晴らしさを感じました。

特にES(社員のやり甲斐)、CS(お客様満足)、CSR(企業の社会的責任)を中心とするECSR 三方よし経営が大変評価され、また、社員が主役「サーバントリーダーシップマネジメント」も高い関心をいただき、アデランスグループが推進する経営方針に改めて自信を持ち、全員でさらに鋭意邁進したいと思います。

今回は、MBAプログラムの正式な授業として採用され、津村社長の英語による挨拶から始まり、当社の経営ビジョンと歴史的考察を発表し、多くの学生が聞き入っていました。MBAの学生にとって経営トップから考えを直接聞いたことは、とても有意義だったようです。

私は、「三方よし」という日本のCSR哲学の説明と、当社独自の具体的なCSR展開を紹介し、ハリス社長は、戦略的CSRを英国でどのように導入したか、またどういった広がりを実現しているかといった発表をしました。

2年連続でレスター大学での講義に招聘されたことを誇りに思うと同時に、当社の戦略的CSR推進への大きな責任を感じました。

グローバル企業としてのアデランスグループ英国代表として、セミナーに参加しただけではなく、講義まで行なえたことをとても誇りに思います。2002年にアデランスグループに加わったことで、このような素晴らしい名誉ある場をいただき感謝しております。

本社経営陣と私の3人による講義の間、学生たちはアデランスの企業理念や三方よしの考え方について真剣に集中して聞き入っていました。また、英国に戦略的CSRをどのような形で導入したのかなど、講義の後、多くの学生が教室に残り、学生自身の理解を深めるために、非常に有意義な質問やコメントを交わすことができました。



株式会社アデランス
代表取締役社長
津村 佳宏



株式会社アデランス
執行役員 海外事業本部 副本部長
グローバルCSR広報室 担当
箕輪 陸夫



アデランス UK
社長
リン・ハリス

ゲストスピーカーとして代表取締役社長の津村佳宏が初めて参加しました。講義招聘への感謝を述べた後、「三方よしによる経営改革」をテーマに、企業の発展における戦略的CSRの重要性を企業トップの言葉として語りました。

次に、グローバルCSR広報室の担当役員の箕輪陸夫が「事業と一体化した戦略的CSR」のタイトルで、CSR活動を推進したことによりもたらされた、ポジティブな結果例を紹介しました。中でも病院内へアサロンの展開には、学生のみならず先生方も大変関心を持たれていました。

最後に、英国のアデランスUK社社長のリン・ハリスが自社でのCSR活動を話しました。アデランスUK社は、アデランスグループの中で最もCSR活動を積極的に進めており、オリンピックの自転車競技ゴールドメダリストであるジョアンナ・ロウセル氏や料理研究家のサリー・ビー氏による「ウィッグアンバサダー」(本文18ページ参照)、英国美容師の権威である、トレバー・ソルビー氏と協力して脱毛で悩む方をサポートする「My New Hair」など代表的な8つの事例を伝えました。

講義終了後は、津村社長、箕輪役員、リン社長のところに学生が集まり、相次ぐ質問や写真撮影の依頼が途切れることなく続き、当社のCSR活動に対する学生の興味の深さを感じました。

レスター大学について

レスター大学(University of Leicester)は1921年に創設された英国イングランド中部、レスター市に位置する国立大学。比較的小さな規模にもかかわらず、英国では最も優れた大学のひとつとして、認知されている。教育・研究において国際的な名声を誇り、多数の著名な研究者や有力者を輩出し、世界のトップ200大学にもランキング。2014年9月から1年間、秋篠宮家の眞子内親王が大学院博物館学研究科に在籍された大学としても知られる。



水尾 順一
株式会社アデランス 社外取締役

アデランスは、昨年日本企業として初めてレスター大学の大学院から正式に招聘され、MBAの学生を対象に特別講義を行いました。

2年連続で特別講義に招聘された企業は世界初で、アデランスグループがグローバルブランドとして、またそのCSR活動の卓越性が世界的にも評価されていることの証しともいえる快挙です。

資生堂在任中に福原会長(当時)の下で、CSR部署を立ち上げ、日本で最も進んだCSR活動を実現した後、1999年に資生堂を退社し駿河台大学へ転身。その後、「マーケティング倫理」により、アンゾフ・アワード特別文献賞を受賞。また、西武ホールディングス「企業倫理委員会」社外委員として、企業の経営倫理を支え、同社の再上場にも貢献した。現在は、日本におけるCSRの第一人者として活躍、日本経営倫理学会副会長、日本経営品質学会副会長の要職にある。2015年5月、株式会社アデランスの社外取締役に就任。

2016年8月のレスター大学MBAサマースクールで、アデランスの箕輪執行役員とリン・ハリス社長が、記憶に残る素晴らしいCSR講義を行ない、MBAの学生から好評を博しました。さらに今年は、レスター大学の正式なMBAクラスで講義をしていただくことになりました。

津村社長の戦略的CSRの考えを含んだ経営ビジョンや企業沿革の歴史的考察は学生たちにとって、とても刺激的であり、箕輪執行役員の魅力的で熱のこもった語り口とアデランス独自の具体的な活動内容の紹介、そしてハリス社長の戦略的CSRの英国への導入など、学生たちは経営陣の人たちの講義に、緊張感を持って聞き入っていました。講義内容は学生たちの期待以上のものとなりました。

講義後も多くの学生が質問のために教室に残り、今年で最も忘れられない素晴らしい講義となりました。

本講義の運営をサポートしてくれた、大野秘書室長と新田サブマネジャーに感謝いたします。



レスター大学 教授
シングモンド・ワグナー塚本 様

ルードヴィヒ・マクシミリアン大学(ドイツ)、パーミンガム大学(英国)、オックスフォード大学(英国)、アインシュタット・カトリック大学(ドイツ)にて経済学を修め学位取得した後、1997年より英国レスター大学ビジネススクールに着任。専門は経営学、経済学、哲学・倫理学、宗教学などにおいて高い専門性を有する。最近では多くの専門性を基盤とした学際的アプローチを行う。特に「倫理としての経済学」という概念を構築しつつ経営倫理・CSR論の研究を進めている。

津村社長が自らアデランス社を紹介し、その経営の要諦としてCSRの取組みをどれだけ大切に考えているかを語られたところから講義がスタートしました。

これは学生たちに極めて大きな衝撃を与え、アデランス社の戦略的CSRに対する真剣さを直に感じさせる大変なものになりました。学生たちの顔が見る間に真剣さを増していったのです。

ワールドワイド、EU地域、UKのトップが真剣にCSRを具体的に語る。教育が人を育てる瞬間を目の当たりにしました。今回も大変貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。



金沢工業大学
基礎教育部 准教授
岡部 幸徳 様



高野 一彦
株式会社アデランス 社外取締役

本年度は、津村佳宏社長、箕輪陸夫役員、そしてアデランス英国のリン・ハリス社長により、当社グループのグローバルな事業活動と三方よし経営ビジョン、これに基づく戦略的CSR活動などの講義を行いました。これは当社グループとしては然ることながら、CSR研究を行っている学会としても有意義な素晴らしい活動だと思います。

関西大学 社会安全学部・大学院社会安全研究科 教授・博士(法学)、日本経営倫理学会 常任理事、日本経営倫理士協会 理事、経営倫理実践研究センター 上席研究員などを兼任。2016年5月、株式会社アデランスの社外取締役に就任。

女性活躍のサポート

社外で活躍する女性

輝く女性の応援：冴木杏奈様とのコラボレーション



アデランスでは、輝く女性を応援する一環として、アルゼンチンタンゴ歌手の冴木杏奈様にウィッグを提供し、国内外のコンサートや舞台などでの活動をサポートしています。

冴木杏奈様は、タンゴ界において新しい感性の歌手として注目を集め、「世界が尊敬する日本人100人」（ニューズウィーク日本版）や「タンゴに貢献した20人」（アルゼンチン）に選ばれ、タンゴ界最高峰の詩人オラシオ・フェレル氏からも「グラン・アルティスタ

（偉大なるアーティスト）」と称賛を受けるとともに、世界各国で高い評価を得ています。

冴木杏奈様のデビュー30周年を記念して、冴木杏奈様と当社にて吟味を重ねて、フォンテーヌと冴木杏奈様とのコラボレーションウィッグを開発し、発売しました。

また、全国約90局のコミュニティFMで冴木杏奈様がパーソナリティを務めているラジオ番組「杏奈カフェ♪」が、2017年6月に放送300回を迎えました。

一般社団法人シンクパールへのサポート

シンクパールは、女性の健康教育と予防医療の推進を行う一般社団法人です。アデランスでは、その活動目的に賛同し、「婦人科系

検診」の啓発と促進、「子宮頸がん」の未然予防、患者支援でのコラボレーションに向けた動きが進んでいます。

冴木杏奈さんの個性を引き出す

ウィッグのご提案は衣装や使用するシーンを伺い、冴木さんの個性を引き立てるようにしています。また、使用シーンに合わせてキャップサイズを工夫したりしています。

最近では「お任せする」と言ったお言葉もいただき、信頼関係もしっかり築けています。

フォンテーヌのウィッグを、さらに様々なプロフェッショナルな方にもご使用いただけるファッションウィッグとしてご紹介し続けたいと考えています。



株式会社アデランス
FN営業企画部
マネージャー
北本 典子



アデランスでは、女性の皆様のさらなる活躍に向けて、社外では自分らしく生き、今を輝く女性の皆様の、毛髪・ウィッグを通じたサポートを、社内では社員の6割以上を構成する女性社員が高い意欲を持ち、能力を存分に発揮できる環境づくりなど、社内外の女性活躍をサポートする推進施策に取り組んでいます。

社内で活躍する女性

がん治療を経て、サバイバー支援

境谷は、アデランスでの業務とは別に、自身のがん治療の経験をもとに、一般社団法人がんサーフィットネス、NPO 法人マギーズ東京、NPO 法人乳がん画像診断ネットワーク等の活動に賛同してがんサバイバーシップの支援を行っています。



境谷 千恵子
株式会社アデランス
医療事業推進部 マネージャー

写真 左端：がんサーフィットネス 広瀬 真奈美 代表理事
中央：マギーズ東京 秋山 正子 共同代表理事
右端：境谷 千恵子

1981年にアデランスに入社して、今年で36年になります。50歳のとき乳がんが罹患しましたが、がんになっても会社を辞めようと思ったことはありません。アデランスはがん患者であっても働きやすい環境を提供してくれる会社です。私はアデランスが大好きで、仕事を続けたいという想いを家族が理解してくれて、協力してくれました。会社、家族に感謝せずにはいられません。自分の経験を活かし、患者様やご家族が罹患前と同じように笑顔溢れる日々を送れるようサポートを行いたいと思っています。同じ境遇にある患者様やご家族が、いつでも気軽に足を運び、癒され、笑顔になれる場の提供をアデランスがお手伝いしていきたいと思っています。

がんの罹患が分かったときに、すぐに上司に相談し、自分の働き方について意思を伝えました。社内外問わず、相談できる人がいたことで、職場内でオープンにし、上司と同僚に理解を求めることができました。正しい知識、副作用の情報を入手できたことが、がん治療と仕事の両立に繋がったと思います。ウィッグを早急に作っていただいたことの感謝の気持ちは今でも忘れません。

サバイバーの経験を経て、各企業に自分自身や大切な家族ががんに罹患した際の相談窓口があったら良いと思います。2人に1人ががんに罹患する時代となった現在ですが、医療も進歩しました。仕事をしながらの治療を選択する方々も増えてくると思いますので、そのような社員をサポートするような仕組みが、社員の活躍に繋がると思います。



井上 美也子
株式会社アデランス
カウンセリング室
マネージャー

子育てなどのライフステージとウィッグ作りを両立



川崎 むつみ
株式会社アデランス
商品企画開発部 マネージャー

日本国内のウィッグ製造現場での毛植え作業、海外工場の立ち上げや現場スタッフの指導など、入社以来約30年間、アデランスのものづくりにかかわっています。

Q 現在までアデランスで働き続けることができたポイントは何ですか？
一緒に働く仲間が存在があったからです。「目配り、気配り、思いやり」により32年間止まることなく働き続けられています。

Q 毛植え経験やOEM先への技術指導、商品企画など多岐に渡って仕事に関われ、アデランスで働くことの魅力は何ですか？
言葉の通じない国での技術指導、限られた時間内での品質確認、緊張や食の違いにより体調不良を起こし苦しい経験もありましたが、ふり返ってみると、それにより多角的な観点をもち判断できるようになった気がします。

Q 仕事と子育てを両立する上で大切にされていることは何ですか？
家族が健康で毎日笑顔で過ごせることです。もうひとつは会話です。会話が増えることで様々な発見や気付きが生まれ、目標への近道にも繋がります。

社内技術競技大会

アデランスでは、経営理念である「最高の商品」「最高の技術」「心からのおもてなし」の実現を目指して、お客様に心からご満足いただける最高の技術を提供できるかどうかを競う、社内技術競技大会を継続的に実施しています。

～第1回フォンテーヌレディメイド部門～ 接客力や技術力を競う大会を初開催



お客様に生涯感動を

初のロープレ&スタイリング大会を開催する事になり、大会に向けてスタッフ方全員が創意・準備・工夫をし「一致団結」となった大会になったと思います。お客様が満足して頂けるには私たちアドバイザーは何をするべきなのか・・・と考え行動する力を付ける事が重要です。そのために接客・技術共に+αのサービスに向けて磨き続け心掛ける事で、お客様に生涯感動をご提供する事が出来ると思います。



株式会社アデランス
CS 教育部 リーダー
小林 桃子

「第48期アデランス全国ロープレ・スタイリング大会 ～第1回フォンテーヌレディメイド部門～」は、当社の百貨店・直営店・GMS 店舗で働く正社員・契約社員（2016年12月末現在 805名在籍）の中から、「ロープレ部門」「スタイリング部門」それぞれの部門において、接客力・技術力の高い1名を選ぶ大会です。本大会は、近年のウィッグ需要の高まりなどを背景に、当社の強みである「接客力」「技術力」の更なる向上を目的に、ファンテーヌとして初めて開催しました。

アデランスの理美容師が技術を競う『第48期全国技術競技大会』を開催

2017年で23回目となる「アデランス全国技術競技大会」を開催し、全国のアデランス、レディスアデランスの店舗などで働く理美容師の資格を有する者（2017年1月末現在 1,017名在籍）の中から、「理容部門」「美容部門」において競い合い、技術力の高い1名が選ばれました。



社内技術競技大会について



2018年の創業50周年に、グローバル大会を開催予定

創業50周年を迎える2018年に、国内外のグループ会社まで対象を広げたグローバル大会の実施も進めていく予定です。アデランスでは、本大会を通じ、経営理念である「最高の商品」「最高の技術」「心からのおもてなし」の実現を目指していきます。

ウィッグの新しい価値提案

アデランスは創業以来、時代とともに変わるお客様のニーズに対応し、ライフスタイルやさまざまな利用シーンに合わせ、あらゆる世代にウィッグの価値を提案し、世界中に愛されるブランドへと目指しています。

米国の人気ウィッグブランド「ルネ オブ パリス」のウィッグデザイナージェリー・ホルト氏の初来日記念ウィッグショーを常滑で開催



「ルネ オブ パリス」は、著名なフランス人ヘアースタylistであるルネ ハフィド氏が1976年にアメリカで創業し、業界を牽引するファッション・ウィッグブランドとして支持されています。1989年にアデランスのグループ会社となりました。

2017年6月に、アデランス・ヘア・グッズ社のウィッグデザイナーであるジェリー・ホルト氏が初来日し、ウィッグショーを愛知県の常滑で開催しました。当日のイベントは、流通専門の業界紙である月刊ストアーズレポートにも特集記事が掲載されました。

海外ウィッグデザイナーによる、日本のお客様への新しいヘアスタイルの提案は、日本だけでなく海外でも事業を行っているアデランスならではの強みを生かした、新しい価値創造と言えます。

お客様が感動

当店でウィッグアレンジショーを行うのは、初めてのことで、当日まで緊張感でいっぱいでした。当日はご予約いただいたお客様だけでなく、通りがかりのお客様も見にこられ、立ち見のお客様もいらっしゃるほど、満席となりました。

ショーは、リズム感のある展開で、躍動感に溢れるカラー、デザインやスタイリングなどの斬新さが現れ、お客様からは「楽しかった」「感動した」「着けてみたい」という言葉をいただき、好評でした。

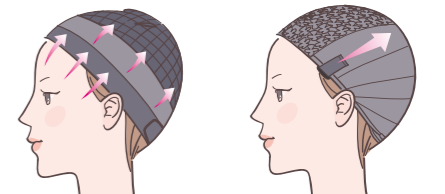


株式会社アデランス
ルネ オブ パリス by
フォンテーヌ
イオンモール常滑店 チーフ
重 加奈美

機能性インナーメーカー「エル・ローズ」社とのコラボレーション

「リフトアップウィッグ®」は、機能性インナーメーカー・株式会社エル・ローズ（本社：福井県福井市、代表取締役 前川 長慶）と共同開発した顔のリフトアップと自由なヘアアレンジを同時に楽しむことができるレディメイドウィッグです。

本製品シリーズは、当初3年での目標販売の12,000個を、わずか1年半で売り上げ、いつまでも若々しくありたいと思う女性のお客様のニーズに応えた人気商品となりました。



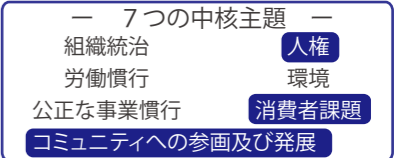
RYNSHU(リンシュウ)2017-2018年AUTUMN/WINTER パリコレクションに協力



「日本のモダニズム」というテーマのもと、アデランスのウィッグデザイナーの NORIKO が、リンシュウ氏とウィッグデザインを共同創作いたしました。メンズウィッグを刷新し、髪も洋服と同じようにファッションの一部として楽しめるアイテムであることを改めて表現しました。時代の流行をいち早く発信するパリコレクションでの協賛を皮切りに、スタイリッシュなファッションウィッグを積極的に提案していきます。

社会・地域貢献

アデランスグループの商品をご利用いただくお客様以外にも、毛髪関連事業を通じて、社会に広く、笑顔やよろこびを広げることができないかと考え、国内外で様々な活動に取り組んでいます。



がん患者様などへの支援



「ピンクリボンのお宿ネットワーク」に協賛

誰の目にも気にせず旅に出かけてもらい、患者様に、心ゆくまで旅館・ホテルでの入浴などを楽しんでもらいたいという設立趣旨に共感し、2012年7月の設立以来「ピンクリボンのお宿ネットワーク」を応援、協力しています。全国の病院内へアサロンでお宿情報満載のフリーペーパーを配布しています。

～みんなでひとつつながろう～ One Worldプロジェクト

東日本大震災支援 「One Worldプロジェクト」で ウィッグお手入れ支援サービス

アデランスは、東日本大震災で被災されたがん患者様向けに、ウィッグのお手入れ支援サービスを継続しています。2012年7月からスタートし、ウィッグのお手入れ等を通常価格の半額で提供しています。継続のご要望が多く寄せられたため、2018年6月末まで延長します。



東京都主催「がん患者の治療と 仕事の両立への優良な取組を 行う企業」にて奨励賞を受賞

東京都が主催する「がん患者の治療と仕事の両立への優良な取組を行う企業」において、アデランスは奨励賞を受賞致しました。がんに関与した従業員への支援プロセスが明確化していること、がんの罹患を理由にした退職者が0であるという、当社の取り組みが評価されました。

社会・地域のために



人工毛髪によるCSR調達の推進

アデランスは、無理な人毛調達を回避するため、人毛に劣らない人工毛髪の開発・製造を行っています。一般のウィッグには人毛が使われている中で、アデランスでは1983年より人工毛髪の研究に着手し、1990年にサイバーヘア、2006年にバイタルヘアとして商品化しています。



国連グローバル・コンパクト署名

アデランスは、2014年4月に「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。広く社会に貢献するグローバル企業として、社会的課題に自社の強みを生かして取り組み、持続可能な社会の実現に努力しています。



海外工場でのウィッグ生産

ウィッグの生産工場を、1986年にタイで、2002年にフィリピンで、2014年にラオスに設立し、雇用をはじめ、地域コミュニティとの協力関係を進めています。

現地雇用人数(2017年6月現在)

- ・ラオス 1,045名
- ・フィリピン 1,400名
- ・タイ 871名

笑顔とよろこび



愛のチャリティ

アデランスは、1978年から「愛のチャリティ」を実施しています。これは「お子さまの髪の悩みを心の傷にしないために」をテーマに、病気やケガなどの理由でウィッグを必要とするお子さま（現在は4歳から15歳までが対象となります。）が笑顔を取り戻していただけるよう、ウィッグをプレゼントするという活動です。

年度	贈呈数
2012年	123枚
2013年	178枚
2014年	277枚
2015年	357枚
2016年	339枚

当初はクリスマスの時期に限定していた活動でしたが、2012年9月から通年のものとなりました。

クリスマス・サンタ企画

クリスマスの時期に、自宅に帰れないお子さまのために病院を訪問し、プレゼントをお渡しする「クリスマス・サンタ企画」を30年以上行っています。2016年は26箇所の病院で実施しました。



アメリカの愛のチャリティ 「Hair Club For Kids」

アデランスグループであるアメリカ関連会社「ヘアクラブ社」では、髪で悩む子どもたち（6歳から17歳）にウィッグをプレゼントする、アデランス社の「愛のチャリティ」同様のサポート活動を、1992年から20年以上継続して行っています。



JFL所属チームFC大阪との コラボイベントを開催

アデランスは、2016年9月に、FC大阪を運営する株式会社アールダッシュ様とのコラボレーションイベントを実施致しました。サッカー教室に来られたお子様やそのお母様、試合観戦に来場された女性のお客様を中心に約300名の方に当社のピンク色のエクステンションを装着いただきました。



NPO法人JHD&Cへの協力

NPO法人JHD&C（ジャーダック）への活動に賛同し、2015年3月から全国のアデランス店舗を頭のサイズの計測やウィッグのお渡しの場として提供しています。2016年4月からはウィッグの製作にも協力。株式会社コマチセンター様と共に、ウィッグを必要とする子どもたちへスピーディで質の高いウィッグの提供を目指します。

取材をきっかけに活動範囲が拡大

私の高校時代の放送部での課題で、アデランスさん取材したことがきっかけとなり、JHD&Cさんとのヘッドネーションの活動が、ここまで広がると思っていませんでした。アデランスさんとJHD&Cさんの強い思いがあってこそです。

せっかく伸ばした髪の毛が、切った瞬間にゴミになってしまうことに違和感を覚えていました。実際ヘッドネーションをした時は、自分の髪が役に立つのだと感じ嬉しかったです。誰もが髪を切る時に、ヘッドネーションのことが頭によぎるような未来になればと思っています。



帯広三条高校 卒業
愛知県立大学 3年
荒 麻菜絵 様

CSRレポート2014・20ページをご参照ください。

お客様の安心・安全

アデランスグループでは、「私たちが目指すもの」として「心からのおもてなし」を経営理念の一つとして掲げ、お客様の満足と信頼を高めていくために、グループ一丸となって取り組んでいます。

7つの中核主題
組織統治 人権
労働慣行 環境
公正な事業慣行 消費者課題
コミュニティへの参画及び発展

お客様に向けた取り組み

病院内ヘアサロン 様々なお客様のご要望にも対応

当社は髪を通じて心の健康をサポートする医療事業活動に積極的に取り組み、その一環として病院内理美容室（ヘアサロン）を、2002年に開始し、現在では全国で29店舗となりました。

病院内ヘアサロンでは、一般的な理美容サービスのほかに、医療用ウィッグ及び他社商品のアフターケア、抗がん剤治療に伴う副作用の脱毛時のご相談や外見支援のご相談により、

患者様の QOL (Quality of Life) の向上に向けたサービスを提供しています。

また、移動が困難な患者様を病棟までお迎えに行き、そのまま理美容サロンで技術が提供できる移動式の理美容イスを導入しています。患者様の身体的な配慮という点で、病院関係者から高い評価をいただいています。



座ったままカットやシャンプーができる移動式理美容イス



株式会社アデランス
医療事業推進部
上田 浩子

患者様一人一人が日常生活を送れるように

患者様にとって脱毛は、大きな負担になっています。脱毛によって変化してしまう外見を覚悟していても、想像以上にショックを受けてしまう方が殆んどです。「ウィッグなんか使用したくない」と思われる方も沢山いらっしゃいます。ウィッグにマイナスイメージを持たれてる方々に、満足して使用していただけるようにご提案し、お一人お一人が今までと同じ日常生活に近づけられるようお手伝いさせていただきたいと思っています。

やさしい接客

病院を訪問させていただくスタッフ、患者様をお手伝いさせていただくスタッフには、医療知識などの講習を義務付けています。

多様なニーズやご希望のスタイルにお応えできるよう、充実した内容の研修プログラムを実施するとともに、心のケアにも努め、医療用ウィッグを扱うプロとして対応します。

外部専門講師による医療講習は、VOL-NEXT 社（がん患者サービス事業会社）により実施され、2005年以降の受講者数は2,000名を超えました。



医療用ウィッグの挑戦は続く

2005年、医療向けウィッグに対する患者ニーズを、VOL-NEXTに聞きに來られました。「患者の声」に耳を傾け、それに応える挑戦を続けるアデランス社に、私は心から感謝しています。

現在、アデランス社と私共は、女性の活躍世代（30代～60代）のがん罹患が増え、抗がん剤治療による脱毛が、女性の社会進出や活躍を阻んでいることを社会課題と捉えて、これをウィッグで解決するプロジェクトをスタートさせました。日本の女性達が、「人生のどんなときも輝く！」ことを応援する挑戦が続いています。



がん患者生活支援サービス
株式会社 VOL-NEXT
代表取締役
曾我 千春 様

お客様のニーズの具現化



UVケア商品をリニューアル 近赤外線カットパウダーを新配合

従来のUVケア商品を、「ビューステージ UV プロテクト プレミアム」として2017年6月にリニューアルしました。

「業界最高水準のUVブロック機能」「新たに天然由来成分と近赤外線カットパウダーを配合」などの特徴があり、お客様が望まれる機能を取り入れました。



米国ヘアクラブ社の技術を応用 新增毛ヘアシステムを日本に導入

アメリカ関連会社「ヘアクラブ社」の技術を、日本向けに応用した定額制増毛システム「フリーダム」を、2017年4月から始めました。

お客様が自髪感覚で日常生活を過ごすことができる、男性・女性兼用ヘアシステムです。また、女性向けとしては初の定額制サービスとなります。



ソーシャルプロダクツ賞を受賞

一般社団法人ソーシャルプロダクツ普及推進協会より、ECO CERT 認証を取得している当社商品の「SCALP GUARD Organich」シリーズがソーシャルプロダクツアワード 2017 の国内部門でソーシャルプロダクツ賞を受賞致しました。

制度の確立



世界初のウィッグの国家基準化 医療用ウィッグJIS規格制定

ウィッグとして世界初の国家基準（規格番号：JIS S9623）が2015年に制定されました。脱毛に悩む患者様をサポートすべく、業界と共に医療用ウィッグの保険適用の実現を目指していきます。

AIU損害保険との提携

患者様のQOL向上を目的に、AIU損害保険株式会社と提携して、治療で脱毛された方がウィッグを購入される場合、その費用を補償する保険が実現しました。



「日本毛髪工業協同組合」 (経済産業省認可)

「日本毛髪工業協同組合」は、1970年6月に通商産業（現経済産業）大臣より認可され設立された業界で唯一の認可団体です。お客様からの質問やご要望の窓口として、また関係省庁からの関連情報のとりまとめ窓口として活動しています。

当社会長の根本が1991年から13年間理事長職に就き、業界の相互信頼や透明性の実現に尽力し、その功績により、藍綬褒章を受章しました。

毛髪診断士の資格取得

毛髪と皮膚の専門的な知識をお客様へ正しくお伝えできるように、毛髪診断士（日本毛髪科学協会）の資格取得を推進しています。

社内の資格保有者数

- ・毛髪診断士：321名
- ・認定講師：12名
- ・認定指導講師：6名
(2017年7月現在)

国際品質管理規格の取得



当社のウィッグ工場では、安定した製品品質を維持するため、1999年にISO 9001（国際品質管理規格）を取得しています。

環境への取り組み

7つの中核主題
 組織統治 人権
 労働慣行 環境
 公正な事業慣行 消費者課題
 コミュニティへの参画及び発展

アデランスグループは、「環境」を企業の社会的責任の一つと考え、商品の環境対応や事業所での環境負荷の低減など、経済と環境が両立する持続可能な社会を創造できるよう、「低炭素社会」「循環型社会」「自然との共生」に配慮した活動に取り組んでいます。

フォントーン緑の森

「緑の森キャンペーン」全国展開 第1弾を東北エリアで実施 ～NPO 法人さくら並木ネットワークとのコラボレーション～

「フォントーン緑の森キャンペーン」の全国展開第1弾として、2016年より東日本大震災の被災地へ桜並木造成を支援を開始しました。2017年4月には植樹会を催し、鮫浦湾を見下ろす宮城県石巻市大谷川地区高台移転地にて桜の成木と記念石柱のお披露目、桜の苗木の植樹を行いました。



NPO 法人さくら並木ネットワーク
 100年に1度はやってくるという地震と大津波の際に住民避難の目印となることを目的として、東日本大震災の大津波到達地点に桜の植樹活動を行なっています。

植樹会に参加された皆様のコメント

大谷川高台移転地の皆様とアデランス様による、温かい心のこもった植樹会になりました。

将来の大谷川高台移転地の春。この日一緒に作業したことが笑い話になるような桜の花見を一緒にしたいものです。

NPO 法人
 さくら並木ネットワーク
 東北エリアマネージャー
 吉武 信幸 様

集落に公園を作るにあたり住民皆で待ち望んでいた桜の木々が、サポートいただき植樹をすることができ、大変ありがたいです。桜並木を目印とすることを子供たちに引き継いでいきたいと思えます。

大谷川振興会
 代表
 阿部 政悦 様



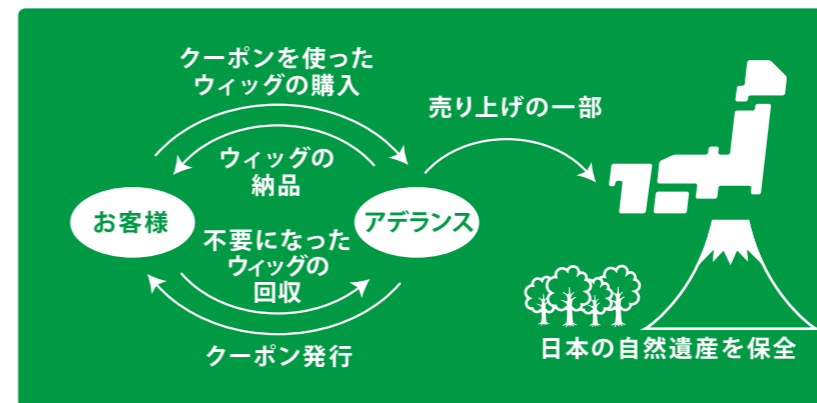
桜の木の植樹と記念の石碑



緑の森キャンペーンを全国規模に拡大 ～日本全国7つのエリアでの環境保全活動～

2009年に始まった「フォントーン緑の森キャンペーン」が、2017年より「緑と桜エコロジカルプロジェクト」として活動範囲が広がります。

従来、山梨県での植林から、日本全国の自然遺産を保全する活動となります。日本の美しい自然を未来の子どもたちへ残すため、全国規模の環境保全へと展開を広げていきます。



「フォントーン緑の森キャンペーン」
 フォントーン店舗で、お客様の使われなくなったウィッグ（他社商品を含む）を店頭にお持ちこみいただいた際に、クーポン券（緑のクーポン）を進呈します。このクーポン券を利用することで、新たなフォントーンウィッグを購入いただく際に割引価格が適用されることに加え、お買上商品1点につき100円分を環境保全活動に還元します。

環境活動への参加



写真(上)
 ボランティア休暇の際に各自のオフィスのドアなどに貼る不在を示すマーク

Pay It Forward

アデランスグループであるアメリカ関連会社ヘアクラブ社では、慈善活動を通じて従業員が地域社会に貢献することをサポートし推奨するために、従業員ボランティアプログラム「Pay It Forward(ペイ・イット・フォワード)」の取り組みを、

2015年に開始しました。

このプログラムでは、社員が、有給のボランティア休暇をとり、食糧支援、里子支援や「ビーチ・クリーンナップ」の環境活動など、多岐にわたる活動にボランティア参加をしています。

地域コミュニティとの連携 社員間チームワークの強化に

ヘアクラブの社員はペイ・イット・フォワードによって醸成されたチームワークを楽しんでいます。

ボランティアに参加することを楽しみにしており、年間の活動数を増やすように求めている社員もいます。

一日休暇を取って、快適なオフィスで過ごすのではなく、汗を流す作業にチャレンジすることは非常に素晴らしいことであると思います。



ヘアクラブ
 人事担当
 モニカ・ガルボーザ

環境負荷の軽減



3Dスキャナーによる型取り

アデランスの店舗では、お客様の頭髪測定時に、3Dスキャナーを使った型取りシステムを導入しています。このデジタル化により、従来の頭髪測定で使用するフィッターを削減できるとともに、フィッター輸送が不要になるため、その分の環境負荷の軽減につながり、環境にやさしい対応ができるようになりました。



ウィッグ製作時の廃材の利用

アデランスのタイ工場では、ウィッグ製造の過程で、短い毛材やネットの切れ端、ドラム缶など、再利用できない資材が生じています。そのような資源を、そのまま廃棄するのではなく、有効活用できないかと考え、造花、サンダルなど多種多様な試作に取り組み、展示用やプレゼント用に役立てています。



ISO14001の取得

タイ工場は、ISO14001(国際環境管理規格)を1999年に認証取得し、以下の活動を継続して実施しています。

1. 工場排水による水質汚染の防止
2. 工場内における空気汚染の防止
3. 産業廃棄物の安全処理
4. 有資源の効果的使用
5. 工場内の労働環境改善

学術・文化活動

アデランスグループは、「笑顔」や「よろこび」あふれる社会の実現をめざし、当社の強みを活かせる「毛髪・ウィッグ」領域での活動に重点を置いています。

7つの中核主題
 組織統治 人権
 労働慣行 環境
 公正な事業慣行 消費者課題
 コミュニティへの参画及び発展

アカデミック機関との共同研究 産学連携の研究成果を商品へ



受賞に対する関係者のコメント

今回の会議では、全体的にはテキスタイルサイエンス寄りの発表が多く集まっていますが、そのなかで、材料科学的な視点の我々の研究を高く評価して頂いたことは、素直に喜んで良いと思います。



東京工業大学
物質理工学院 材料系
鞠谷 雄士 教授

入社 2 年目の佐藤君に、英語での発表という大役を一任しました。私が発表する選択肢もありましたが、いずれ必ず訪れる代替わりを見据え、若い力に全てを託しました。今後も様々な場面で次世代を担う方々にチャレンジしていただきたいと思います。



株式会社アデランス
商品企画開発部
サブマネージャー
関 正敏

アジア繊維会議で発表する機会をいただき、研究について高く評価していただいたことに感謝しています。海外での英語発表ということで苦労もありましたが、この苦労も今後の人工毛髪開発に活かしていきたいと思います。



株式会社アデランス
商品企画開発部
佐藤 駿祐

～アデランスの新人工毛髪研究発表～ 「テキスタイル材料分野における最優秀論文賞」を受賞

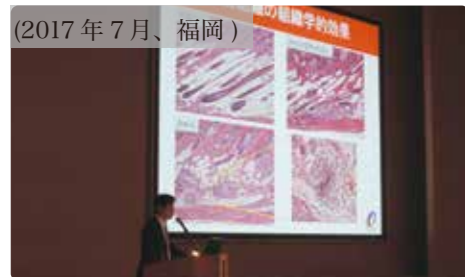
アデランスは、企業の使命として、経営理念の一つである「最高の商品」の開発および毛髪関連業界の発展を目指し、産学連携にて毛髪関連の研究に積極的に取り組んでいます。

2017 年 6 月に開催された「第 14 回アジア繊維会議」では、人毛に近い光反射特性（艶感）とウィッグ用人工毛髪として要求される強度・剛性の両立を、複合繊維の製造条件の最適化により達成した研究成果について発表を行い、「Best Paper Award: Textile Material (テキスタイル材料分野における最優秀論文賞)」を

受賞しました。アジア繊維会議は、繊維や布地に関する最新の研究成果を発表するフォーラムです。世界的な科学者や研究者を育成するためのプラットフォームとして隔年で開催されています。

産学共同研究の成果を国内外の学会を通じて発信し、また、世界の研究者に研究成果について議論していただくことは、毛髪界の更なる進展につながるだけでなく、多くの方の髪の悩みの解消に寄与するための、当社の CSR(企業の社会的責任)活動の一環でもありと考えています。

研究発表活動



(2017 年 7 月、福岡)
第 25 回日本乳癌学会学術総会においてランチョンセミナーを初共催



(2017 年 7 月、大阪)
第 35 回日本美容皮膚科学会総会・学術大会においてイブニングセミナーを初共催



(2017 年 5 月、東京)
第 105 回日本美容外科学会においてスポンサーセッションを共催

スタジオ AD ウィッグとヘアメイクのエキスパート集団



撮影：堀勝志古

アデランスは、ウィッグを多彩な文化活動に提供することで、ウィッグの持つ可能性を広げています。中でも文化芸能部門であるスタジオ AD は、日本を代表する舞台芸術・映像作品を手掛けています。

1983 年にミュージカル『キャッツ』が劇団四季によって日本で初演されました。

『キャッツ』の激しいダンスの動きに耐えるウィッグは、劇団四季へのヘアメイク・衣裳デザイン担当者と当社スタッフが協力して開発したものです。

その後、アデランス独自の芸能用ウィッグは、『オペラ座の怪人』、『美女と野獣』『クレイジー・フォー・ユー』といった日本を代表する舞台芸術に採用され、さまざまな映画やテレビ、コンサートなどにおいても使用されています。

スタジオ AD は” 創作のパートナー”

舞台の感動的な世界観を創り出すために、私たちクリエイターは様々な要素を集約し、組み上げていきます。

中でも俳優が直接身に付けるエンターテインメントウィッグは、極めて重要なものの一つです。その質の程度によっては、キャラクターの魅力、ひいては観客が作品から受ける感動そのものにも影響を及ぼしてしまうことでしょう。

こうした常に高水準のクオリティが求められる分野で、長年第一線を走り続けておられるのがスタジオ AD 様です。蓄積されたノウハウに基づく迅速かつ的確なお仕事に、厚い信頼を寄せております。今後とも“創作のパートナー”として、末永くお付き合いをさせていただければ幸いです。



劇団四季 (四季株式会社)
技術部 副部長
コスチューム・ヘアメイク担当
西山 るみ子様

輝く女性への応援 自分らしく生き、今を輝く女性の皆様を、毛髪・ウィッグを通じたサポートをしています。



書道家 永田 紗戀様

女性ならではの素直な言葉と、そこからイメージする彩色豊かな作品、書道の枠を超えた自由な雰囲気が多く女性から支持されている書道家・永田紗戀様。永田様には当社の社内報、カレンダーや本レポート等に多くの作品を書き下ろしいただいています。



チェリスト 大前 知誇様

チェリスト・料理家として活躍されている大前知誇様に、コンサートや料理教室の際にご使用いただく、ウィッグや付け毛のサポートを提供しています。

大前知誇様は、桐朋学園大学音楽学部を卒業後、ニューヨーク・ドイツ・パリの各音楽院にて学ばれ、国内外のリサイタルで活躍されています。

音楽の研鑽を積む傍ら、パリの名門ホテル、ホテル・リッツ内にあるエコール・リッツ・エスコフィエにてフランス料理・製菓・パンすべてのコースを終え、グランド・スーパーリオール・ディプロマを取得されています。

その経緯から、「音と食のコンサート」という独自の企画を主宰し、活動が注目されています。

また、父君で、画家である大前博士様が、2016 年 8 月に「黒い世界と白き眼光」の作品展が開催された際に、協賛させていただきました。

海外での取り組み

現在、アデランスグループは、世界 17 カ国で事業を展開しています。各国の海外子会社においても、国内の CSR の取り組みと連動して「自社の強みを社会で活かす」を基本精神に、「笑顔を広げる」活動を実施しています。

アジアでの活動



病院へのウィッグ寄贈 累計提供枚数 約2,000枚に

当社はタイにウィッグの生産工場をもつ縁から、ウィッグ寄贈を2012年より毎年実施しています。2017年は270枚を寄贈し、開始以来累計で約2,000枚のウィッグを寄贈してきました。

これまではアデランス・タイ社(ATL社)のみの参加でしたが、2017年はワールド・クオリティ社(WQC社)で製造したウィッグも提供しました。従来のバンコク市内だけでなく、工場のあるブリラム地域の病院にも提供しました。

贈呈病院関係者様からのコメント

ある患者様からは「以前はバンダナや帽子を着用しており外を歩くのも嫌でしたが、最近は自信を持てるウィッグが付けられたことを嬉しく思います。」とお話いただきました。毎年寄贈いただけることに感謝しております。

タマサート大学附属病院
がん患者病棟付属看護婦
パーウィダー・ペットテー 様

「アデランスのウィッグは質感も自然でスタイリングもしやすいので自信を取り戻せた」という声を多く聞き、患者様に笑顔が生まれて、感謝しています。

国立がんセンター
がん患者病棟付看護婦
アンチャーリー・ブントーノン 様

ワールド・クオリティ社(WQC)も参加

この度、国立がんセンターへのウィッグ寄贈のお話を聞き、同じグループとしてWQCも是非参加したいと社員より提案があり、寄贈式に参加させていただきました。患者様がウィッグを装着し笑顔に変わっていく様子を社員と共に立ち会い、非常に貴重な体験となりました。今までの笑顔の為にウィッグを作ってきたと思うと自分の仕事を誇らしく思えます。これからも笑顔のため、心をこめてウィッグを作りたいと思います。



WQC 副工場長
佐藤 国博



障害者施設での無料ヘアカット

アデランス台湾社では、障害者施設を訪問し、無料カットを行っています。2012年にボランティア団体からの呼びかけに賛同し、高雄市内で週に1回程度実施しています。2015年には、基隆市的美容室オーナーから要望があり、同市内でも開始いたしました。この活動は当社社員の技術力アップにもなるため、今後も継続して行っています。



Healthy Women, Healthy Economies Achievement Awardを受賞

アデランス・フィリピン社は、女性の健康増進による経済参加の推進の取り組みが評価され、フィリピン保健省から表彰されました。

ヨーロッパでの活動



病院での無料カウンセリング
2016年より、アデランス UK 社のあるブライトン市内にある病院で、店舗の美容師がボランティアで在学中、治療等で脱毛の患者様向けのセミナーや個別カウンセリングを行っています。



「The Little Princess Trust」へのサポート

アデランス UK 社は、2011年から、英国女王が認めた唯一のチャリティ団体「The Little Princess Trust」をサポートし、髪で悩むお子様にウィッグを提供しています。

ウィッグ・アンバサダー

アデランス UK 社は、著名な英国自転車競技選手のジョアンナ・ロウセル氏や料理研究家のサリー・ビー氏に、ウィッグを提供し、活動をサポートしています。



ジョアンナ・ロウセル氏



サリー・ビー氏



がん患者様と家族を支援する財団NU JIJの支援

アデランス・ベネルクス社フランシー・ヘアブティック店の店長であるレニー・ヴァン・ズンダートが、自身ががんになった経験から、がん患者様を支援する NU JIJ (NOW YOU) 基金を2012年設立し、活動しています。



アメリカでの活動



米国乳がん研究協会への寄付

ボズレー社では、米国乳がん研究協会に、売上の一部を寄付しています。ピンクリボン月間の売上に応じて寄付する方式で、社員の意識が高まり、社員1人また1人と広がりがつあります。

支援団体へのウィッグ寄贈

アメリカには、がん治療などでウィッグを必要とする患者様を支援している非営利慈善団体があり、アデランス・ヘア・グッズ社では、その団体にウィッグを提供することで活動をサポートしています。

ウィッグを購入することができない患者様のため、ウィッグ製造業者である強みを活かした活動を、約10年間継続的に行っています。2016年では14団体に約4,000のウィッグを提供しました。

非営利団体とのコラボレーション

様々な団体を支援するのに役立つ素晴らしい CSR プログラムであると思います。全米を対象に年間を通じて活動を行っています。ウィッグを通じて患者様が自信を取り戻すことは、治療を行っていく上で精神的なサポートにもなると思います。当社では、全ての人々にこのような機会が平等に与えられるべきであるという考えから、今後も継続的に実施していきます。



アデランス・ヘア・グッズ
副社長
スティーブン・コリンズ

ステークホルダー・ダイアログ

昨年に引き続き、経営倫理実践研究センター（BERC）首席研究員である田中宏司先生を、外部の有識者としてお招きして「ステークホルダー・ダイアログ」を実施しました。今回は「ダイバーシティ」をテーマに、役職の女性社員を加えた11名で対談を実施しました。（実施日：2017年8月16日）

津村：現在、国内売上の7割が女性、社員数の6割が女性となり、今後の女性の活躍がアドバンスを大きな成長に導くと思います。今後の商品開発や宣伝などの実務では、女性の力が不可欠となります。当社では、サーバントリーダーシップ・ECSR 三方よし経営を行っており、営業部内での女性の活躍推進をスタートさせています。

田中先生：私たちは企業人として働き、仕事を通じて能力を十分に発揮し、企業に貢献することで、社会に貢献することが本筋です。社会、企業を動かしているのは人です。つまり男女関係なく、人を大切にすることが原点になります。近年、男性だけではなく、女性も一人ひとりが自身の能力を十分に発揮する、または、発揮することが求められる時代に世の中が変化していると認識することが大切です。

龍崎：性別やキャリア、出身の違いなどが意味をなさない時代がくると思います。そのために1つの目標に向かって皆が意見を言えるような環境を作ると共に、長く社会人をやってきた責任として1つのモデルケースを作ることが融合への近道だと思って日々の仕事を行っています。

安藤：販売の現場で、売上を上げる事に喜びを感じ、この5年は色々な場面にチャンスをいただき、この仕事に、会社に、生きがいを感じております。全国のアドバイザー、営業部とのコミュニケーションを大事に、磨けば光る原石のような存在に、努力の継続の先に必ず自己実現、喜びがある事を伝えていきたいです。そして、自ら見本となるよう常に前向きに努力し、温かいパワー溢れる売場となるように心がけてまいります。

小林：現場時代からスタッフを育て成長を感じられる事が自分のやり甲斐であり、励みにもなりました。適材適所という点で、恵まれた環境だと言えます。教育という点では、新人社員に対して、研修や現場教育だけでなく、夢や希望などの道筋を示していくのも重要で、人材の素質を見極め、配置まで考えられる会社でありたいと思います。今後は、重要な現

場教育を行える教育者が増えるように助力していきたいと思っています。

眞子：店舗の数字を任せられているという点で、男性も女性も関係なく、与えられた仕事をこなすため常に意識と意を持ってやっています。それに加え、社員を育てることに幸せを感じながら、人財育成にも力を入れて取り組んでいます。現在、女性活性化という仕事を与えていただき、関西エリアの現場社員で月に1回集まり、夢や理想の会社像の語り合いから、自分たちにできる事は何か話し合い、具現化することを始めました。2017年12月には、フォンテーヌ事業とアドバンス事業がコラボしたイベントを企画しています。小さなことから自分たちの考えを発揮し、形にしていけるよう努力して参ります。

北本：現在のアドバンスでは、年齢や価値観、視線、保守的な考えや否定的な考えなど違いがある中、そういう価値観の差を縮めていくことはとても大変なことに認識しています。私は目指す女性の管理職像が具体的に見えていません。女性は管理職であるか、ないかではなく、自分がやったことや関わったことで、会社が少し動いていく、何か物事になっていくと嬉しいと感じると思います。この会社を大きくしたい、もっとウィッグが世の中から必要なものとされ、ファッションとして認めてもらいたいと目指すところは同じなので、互いに評価できるような会社風土を作り上げていきたいと思っています。

新田：会社の制度が変わってきたのはここ数年と思います。まずこのような場に参加させていただくというのは、大きな変化であり感謝しています。私は最近、役職をいただきまして、2名の部下ができました。ここにいらっしゃる皆様と比べますと管理職の経験は浅く、勉強の毎日です。部下の強み弱みを理解し、カバーしていくとき、自分の指導力のなさに気付かされます。しかし、気が付くと部下が少し成長していて、私自身も成長しているのではないかと感じるがあります。自分が成長することで、人、会社、社会に貢献できるのではないかと思います。勉強と経験を積んでいきたいと思っています。



- | | | |
|-------------------------------|-----------------------|--------------------------------------|
| 1 龍崎 珠美
経営企画部 次長 | 4 箕輪 睦夫
執行役員 | 7 新田 香子
グローバル CSR 広報室
サブマネージャー |
| 2 北本 典子
FN 営業企画部
マネージャー | 5 グローバル CSR 広報室
室長 | 8 安藤 夕利子
GMS 営業企画部
次長 |
| 3 小林 三根子
CS 教育部
マネージャー | 6 眞子 純代
LA 大阪 店長 | |

陰山：以前のアダバンスでは、男性型の会社なので、女性の出世や転職ができないなど、女性のハンディキャップとなるような制度があり、女性の社員が活躍しにくいということがありました。もっと女性の意見を取り入れていかに形に変えていけるか、私たちがサポートできるかでもっと光輝く会社になっていくと思います。もう1つは、人を適材適所に配置する立場として、もっと人を知ること、適材適所の配置になっているのか、今後はもっと確認が求められることになると思いますし、求めていこうと思います。

箕輪：当社の海外の例を挙げると、イギリスの現地会社の社長は女性です。次の社長候補として育てている2名も共に女性です。ドイツも管理部門のトップは女性です。女性の活躍する環境ができています。また、アメリカでは、ヘアクラブの社長は45歳男性で中東からの移民です。その彼を支えているナンバー2が営業本部長の女性です。男性・女性ではなく、黒人・白人の問題、業種の問題、移民、不法労働者などを含め、理解していかなければいけません。

八木：2017年3月に、東京都から「がん患者の治療と仕事の両立への優良な取組を行う企業表彰」で奨励賞をいただきました。しかし、もう1ランク上の優秀賞がありました。女性の役職者比率のという評価も入ってきます。今よりも、女性が活躍する会社が求められています。来年もう一度チャレンジしていきたいと思っていますが、女性の活躍や、良い意味で目指す管理職像の目標となることを今以上に認識してほしいと思います。

ステークホルダー・ダイアログの対談メンバー



田中 宏司 様

東京交通短期大学 名誉教授
(社) 経営倫理実践研究センター 首席研究員
日本経営倫理学会前副会長
経済産業省「ISO26000 JIS 化本委員会」委員

田中先生：皆さんのお話を伺い、自分の部署で懸命に実力を発揮し、努力をされている実状がよくわかりました。皆さんは身近にロールモデルを見つけ、自分の目標にし、努力するのが大切だと思います。人への教育は自分です。自分が育たないと教育はできません。自分たちができるところ、自分たちの能力を発揮するにはどうすれば良いか、人間の本性のところを押さえ実力を発揮できるように配慮いただければ女性活躍が目に見えてくるのではないのかと思います。また、女性の活躍無しにしてこの会社は伸びません。女性が活躍できるような仕組み作りを作るのは経営陣です。経営陣の方がうまくリードして皆さんが活躍できるよう、仕組み作りやメッセージの明確化が重要になってきます。

津村：本日お集まりいただいた皆さんは、役職者です。次の自分を作っていくことで自分自身が成長でき、相乗効果が生まれると思います。これからのアドバンスは、創業50周年に向けて、周辺領域事業である、女性向けの美容関係分野など、新たなビジネスチャレンジがあります。そこには女性の力が重要になり、女性から見た商品の宣伝であったり実務が重要になります。今後は、女性の部長、執行役員、取締役の雇用を目指していきたいと思っています。男性であるか、女性であるか、勤続年数が長いか、短いかなど関係なく、人の力が重要となってきますので、そのような環境を作り出していきたいと思っています。

CSR 広報活動

アデランスグループの CSR 活動や取り組みを多くの方に知っていただくため、イベント等での講演、新聞等からの取材、書籍へのケーススタディの執筆、学術論文での研究対象としての協力などが進んでいます。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
アナリスト・投資家向けセミナー	1回	1回	8回	3回	2回	3回	2回
企業・一般向けセミナー	1回	2回	3回	10回	7回	1回	3回
大学での CSR 特別講義	0回	2回	11回	8回	9回	12回	4回

※2017年9月現在

講演など



東日本大震災の特別番組「KIZUNA Station」での対談

全国のコミュニティ FM のネットワークを通じて震災関連番組「KIZUNA Station」が3月11日に放送されました。当社は2015年より同番組を通じて、当社の東北エリアにおける取り組みを紹介してきました。

今年、福島県立医科大学附属病院の三浦看護師と NPO 法人さくら並木ネットワーク共同代表理事の細沼様、小池様に出演いただきました。

三浦看護師には「One World プロジェクト」発足時のお話や今なお終息されていない様々な課題、現状のサポート内容について紹介いただきました。

細沼様、小池様には、NPO 法人を立ち上げるきっかけとなった先人の方々のお話や実施されている桜の植樹活動に込めた2人の想いをお話いただきました。

これから先も年に1度訪れる「3月11日」という日を、絆として後世に伝え続けるべく、当社としても東北エリアでの活動を続けていきます。

書籍・雑誌



「マーケティング倫理が企業を救う」への取材記事



「放送大学教科書: 技術者倫理」への執筆



「人事実務」への取材記事



「実践!『やじうま広報塾』」への取材記事



「経営倫理」No.76への執筆



「三方よしに学ぶ人に好かれる会社」への執筆



「渋沢栄一に学ぶ『論語と算盤』の経営」への執筆



当社カート・ステン博士による毛髪の文化史の書籍が2017年1月に発行

(ヒストリカル・スタディーズ 18)
「毛の人類史 なぜ人には毛が必要なのか」

カート・ステン(著)、藤井美佐子(翻訳)
太田出版、定価 2,592円

毛髪は人間の証、文化の象徴である。それを進化生物学的、社会学的な角度から紐解いていく驚異の「啓蒙」書!

本書で、人工毛髪分野で高い技術を持っているアデランスが、CSR活動として様々な試みを行っていることを知りました。病や抗がん剤治療のため毛髪を失った方々への支援には感銘を覚え、人工毛髪が人の命を輝かし支えたと感じました。アデランスが、医療機関に求められ、病院内に出店しているという事実は、医療従事者がこのことを重要と考えていることを証明していると思います。アデランスは、人の命を支えている企業です。



株式会社太田出版
代表取締役社長
岡 聡 様

目次

トップメッセージ	1	象徴的な活動	
		社会・地域貢献	9
特集		お客様の安心・安全	11
英国の名門レスター大学での	3	環境への取り組み	13
戦略的 CSR 講義		学術・文化活動	15
女性活躍のサポート	5	海外での取り組み	17
社内競技技術大会	7	ステークホルダー・ダイアログ	19
ウィッグの新しい価値提案	8	CSR 広報活動	21
		目次・編集方針 等	22

編集方針

「CSR コミュニケーションレポート 2017」発行にあたり

2012年、当社として初めての「CSR コミュニケーションレポート」を発行しました。

それから6年が経過し、当社の CSR 活動や取り組みを、社内外に伝えただけでなく、書籍やメディアなどにも取り上げていただくようになり、さらに様々な団体との出会いにつながり、事業活動とのコラボレーションが始まっています。

当社は、「CSR コミュニケーションレポート」を、社内外の皆様の声を取り入れながら、独自性を持った戦略的 CSR をさらに進めていくための重要なツールと位置づけています。

お客様、取引先様、社員、地域社会などのステークホルダーの皆様におかれましては、本書をご高覧の上、当社の社会的価値の創造についてご理解いただくと共に、率直なご意見や今後当社に期待されること、ご要望等を頂戴できれば幸いです。

CSR 重要課題

あらゆる種類の組織のための社会的責任に関する手引である国際規格 ISO26000 が 2010 年に発行されました。持続可能な社会を目指す当社の活動(本紙 9 ページから 16 ページに記載)は、ISO26000 の 7 つの中核主題に基づき分類しています。

- 7つの中核主題 —
- 組織統治
- 労働慣行
- 公正な事業慣行
- コミュニティへの参画及び発展
- 人権
- 環境
- 消費者課題

報告書の対象期間と範囲

対象期間:2016年3月-2017年2月まで。
ただし、特徴的で継続的な活動についてはこれ以降の最新の情報もご紹介しています。

対象範囲

株式会社アデランス及び主要グループ会社を含みます。

企業情報に関して

経営理念・会社概要などについては当社 Web サイトをご覧ください。

<https://www.aderans.co.jp/corporate/company/>

企画・制作

株式会社アデランス グローバル CSR 広報室
アドバイス・サポート:ツバルの森

発行年月と次回発行予定

発行日:2017年9月

次回:2018年8月予定

CSR 情報開示の体系

アデランスグループの様々な活動を、ステークホルダーの皆様へ情報を適切にお届けできるよう、「冊子版」と「Web」の形式でまとめています。

冊子版



冊子版では、「CSR コミュニケーションレポート」「笑顔のために」の2誌において、特徴や進展のある活動内容をクローズアップして紹介しています。

Web



冊子で紹介していない活動内容や数値・データ等を集約し、開示しています。

<https://www.aderans.co.jp/corporate/csr/>